

豪州北部 メルビル島で発生したMV-22 オスプレイ事故の調査報告書について

令和6年8月
防衛省

事故の概要

- 令和5年（2023年）8月27日午前9時半頃（現地時間）、豪州北部準州ダーウィンの北に位置するメルビル島において、豪軍主催の演習に参加していた、ハワイの米海兵隊カネオヘ・ベイ基地 第363海兵中型ティルト・ローター飛行隊所属のMV-22 オスプレイ1機が墜落し、乗員23名のうち3名（両パイロット及び乗組員1名）が死亡

事故原因

- 報告書は、上記事故について、主な原因は旋回のために複数回にわたって急激に機体を傾けたパイロットの操縦ミス（pilot error）と慢心（complacency）であると結論
- さらに、報告書は、事故について、一連の不適切な判断や誤算が直接の原因であり、事故機のいかなる構成部品の物質的又は機械的な不具合により発生したものではなく、また、同機に対して行われたいかなる整備活動により発生したものでもなかったと記載。

事故発生時の状況

- ・ 当時、事故機は、豪州のダーウィン空軍基地から、豪州北部メルビル島内の目標地点への地上部隊の輸送を予定。リード機と事故機の2機態勢で飛行（リード機が先頭、事故機はリード機の後方やや左側約0.3マイル（約500m）を飛行）。
- ・ 両機は、北向きの飛行から旋回して東向きに着陸する、90度旋回アプローチによる着陸を予定。
- ・ 着陸地点への90度旋回アプローチに向けて、まずリード機が減速したが、これは、着陸地点との距離を踏まえれば（減速する）標準的な地点ではなく、また、リード機は減速の事前連絡を事故機に対し行わなかった。

事故発生時の状況（続き）

- ・ リード機が事前連絡無く減速するなか、**2機が急激に接近**することとなった。その状況下で、事故機は、最終着陸方向に向きを変えながら減速を行うとともにモード変換を開始し、**最終着陸方向に向けて急激な右旋回を実施**した。
- ・ 事故機は、翼を水平に戻した後、**再度、右旋回を開始**。旋回の最中に失速警告が出たため、同機は再び翼を水平に戻した。
- ・ リード機は、着陸地点への進入方向（東向き）に向かって最終着陸態勢に入っていたところ、この時点において**2機は距離300フィート（約90メートル）未満まで接近**していた。リード機は、衝突を避けるため降下。
- ・ 他方、事故機は、**再度、急激な右旋回を実施**。乗組員の証言によれば、この右旋回は3回の中で最も急激だったことから、機体は右にほぼ90度傾き、機首は下向きになった。
- ・ **機体が失速し、地面に衝突した**。

その他

- 事故調査報告書は、**「事故の原因となったことを示す証拠はない」**としつつ、第363中型ティルトローター飛行部隊の整備活動について、要求された整備作業が予定された期日までに完了されていなかったこと等について記載し、**安全な飛行を確保するための手順に対して、当該部隊が散漫な（lackadaisical）態度であった旨を指摘**。

事故を受けた対応策

- 報告書には、本件事故を受けた対応策として、米海兵隊MV-22関係者を対象に、例えば、**パイロットの状況認識に係る他の乗組員への情報共有の強化、着陸等について危険と判断された場合、適切にやり直しを行うこと**、事故を踏まえた**安全確認の再徹底を行うこと**について記載。

豪州北部 メルビル島で発生したMV-22オスプレイ事故の調査報告書について



豪州北部準州
ダーウィン空軍基地及びメルビル島